

近 年想定されている最大規模の地震が、南海トラフ巨大地震です。

有田川町における被害想定規模はM9.1、震度は6弱～6強。この規模の大地震が起こったときのための備えはできていますか？実際に起こったとき、対処できますか？

南海トラフ巨大地震発生時の有田川町の被害想定

震度	建物被害		人的被害			避難者数	
	全壊	半壊	死亡	重傷者	軽傷者	1日後	1週間後
6弱～6強	890棟	3,200棟	38人	55人	490人	1,200人	4,000人

上記表の被害想定のほか、地震発生直後の停電率は100%、固定電話の不通率も100%、携帯電話は非常につながりにくく、どれも復旧には数日を要する想定です。さらに、有田川町の人口が約27,000人に対して、水道被害（断水）を受けるのが約26,000人。ほぼ全ての地域で水道が使えなくなります。なお、和歌山県全域では、最大震度7を記録すると想定されています。

最悪の状況を想定する

自分の命を守れなければ、家族や他の誰かの命は守れません。まずは、揺れによって引き起こされる危険を回避すること。そして、その先の生活を生き抜くことを考えてください。

揺れによって引き起こされる危険とは

①家屋の倒壊

まず恐れるべきは、家屋の倒壊です。阪神淡路大震災の死者の約8割が建物倒壊による圧死でした。

昭和56年5月以前に建設された住宅は、強い揺れで倒壊する恐れがあります。

和歌山県では、耐震診断・耐震改修などに対して補助を出しています。特に木造住宅は、専門家の耐震診断を無料で受けることができるので、まずは自分の家が安全かどうかを確認してください。

②家具の転倒

固定されていない家具は、人を襲う凶器になります。地



震による負傷者の3割～5割は家具類の転倒・落下・移動が原因です。

これらを防ぐために、なるべく生活空間、特に居間や寝室に家具類を多く置かないことや、ドアや避難経路をふさがないような家具の配置と固定を行ってください。

③土砂災害やため池の決壊

揺れによって地盤が崩壊、その結果、土砂災害やため池の決壊が起こる恐れがあります。どちらも危険個所は町ホームページに掲載しています。避難ルートを決める際には確認を。



被災後の生活環境の確保

もし、自分の家が倒壊してしまつたら…。避難所生活を想像できますか？避難所は原則、あらかじめ地区ごとに指定された避難所での生活です。他人と同じ空間で四六時中ともに生活することは、想像以上のストレスになります。次のページで大地震の発生から避難、日常生活の再建までの大まかな流れを確認し、実際に自分に置き換えて考えてみてください。